

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実現するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム もう一つの私の家 なでしこ
(ユニット名)	なでしこ3F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県南さつま市加世田村原1丁目9-6
記入者名 (管理者)	松村 日子
記入日	平成 22 年 1 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域の中で生活して行くことが法人の理念であり、事業所としても基本理念・年度テーマ・重点目標と方針を毎年、ケアスタッフ・管理者と話し合いながら作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例会に理事長・事務局長も参加され、法人の理念の実践のために常に学び話し合われる環境で日々のケアに取り組んでいる。また本人の尊厳を守ることで理念の実現を推し進めている。	スタッフ、家族と共に理念の共有を計る事が大切であり日々の取り組みに繋がっている。日々の家族の訪問時にもお年寄りの生き生きとしている姿を伝えている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・運営推進会議・ホームの運営理念を明示したパンフレットと日常記事を掲載した広報誌の地域への配布や日々の会話はもちろんであるが、全ユニットと家族・地域を巻き込んで楽しむ行事を実施するなど自然に理解していただけるよう取り組んでいる。	全ユニット・家族・地域とともに夕涼み会・Xmas会・あくまき(地域の行事菓子)の作成販売・園児との芋ほりなど実施してきました。今後も発展させながら継続していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の暮らしの中でケアスタッフに限らずご本人も散歩・買い物・「小さな采園」での仕事・「癒しの庭」での茶話会の途中で笑顔で挨拶や会話を交わしている。ホームに隣接された「癒しの庭」は地域の人々に解放されパブリックスペースとなっている。	今後も地域に根ざしたホームであるよう努めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板・地域清掃などの日々の関わりから参加している。行事については地域の中で同法人事業所・ホームを中心に催すなど積極的に関わっている。老人会は市の中でも細分化しているため家族の協力をもって参加している。	ホームは孤立することなく地域の一員として地元に関わりよい関係を築きつつある。今後も継続し発展させていきたい。また昔馴染みの地域や人と交流を深め、終生関わって行けるように昔馴染みの老人会などに今後も継続して参加できるように家族への理解も得ながら取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人には既に講演や介護予防教室・2級ヘルパー講習などの実績があり、今年度は認知症になっても安心して住める街、加世田をテーマにシンポジウムやイベント・認知症サポーター養成講座を開催してきた。イベントの中ではなでしこを知っていただくために、会場に来ている子供向けにスタッフ手作りのチラシを配布した。		今後はホーム独自の力を活かした地域貢献も検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果は定例会でケアの見直しに活用されスタッフ全員で「どのようにすれば、よりご本人の暮らしが豊かになるか」検討している。結果は責任者とも協議し年度理念・目標に活かされている。またスタッフの励みとなっている。		法人及び管理者、スタッフが参加する会議の中で共有し随時検討されている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っており活用されている。行政の方・ご本人・家族・地域の方の意見で、ふれ合い農園での園児とのふれ合いを計画したり、地域の七夕祭りへの参加も行われた。また推進会議へ消防署の参加を呼びかけている。		今後も運営推進会議で話し合われた意見などをサービス向上に活かしていきたい。またグループホームを理解していただけるよう警察の方の参加も呼びかけていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの運営上の相談等、担当者とも日常的なやり取りができている。		行き来には担当者により変動あるが、ホームからの働きかけは継続し市町村とともにサービスの質の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、当階には成年後見年制度を利用されている方があり、地域権利擁護や青年後見人制度につき学習する機会を得られた。青年後見人の方とも必要時は連携しご本人を支えている。		認知症の専門事業所として今後制度を利用される方が今後も増えてくると考えられる具体的なサービス利用についての知識を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人母体の特養ホーム開設当初より当然の事として取り組まれており、毎月の定例会でも常に理事長からの話があり、当然全員の思いも拘束しない・日々の言葉使いも敬意を持って話しかける・尊厳を持って接するなど心がけている。		法人理事長は全国での虐待防止マニュアル作成に委員として関わるなど積極的に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者とケアスタッフで読み合わせながら説明を行い実際の暮らしの内容を十分に理解・納得していただけるように対応を心がけている。また解約に関しては今後の不安のないように法人内のソーシャルワーカーや居宅ケアマネージャと連携して対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者があることを書類・口頭で説明しており認知症状により理解が出来ない方についても普段の会話の中からスタッフで汲み取る配慮をしている。また法人内に第三者委員も設置しており第三者にも地域運営推進会議に出席いただき家族との交流がある。		1回玄関に意見箱を設けてありまた家族会でもアンケートで意見を汲み取れるようにしている。また第三者委員は地域の関係者を選任(元市福祉係長 民生委員)外部の声を適切に反映できるようなシステムは出来ている。。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や緊急時だけでなく利用者ご本人の近況や希望も、訪問時、電話で随時連絡している。また職員の異動についても家族会で報告し訪問時に確認できるように常時各ユニットでスタッフ紹介冊子を掲示している。	○	定期の報告はケアプラン作成時に行い個々の状態変化などは随時行なっている。家族会でもご家族の意見や要望など活発な意見交換が行われている。家族委員も家族会で決まり今後共により良いものを作りたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者があることを書類・口頭で説明しており玄関口のわかりやすい場所にアンケートも用意し、家族会の折は全家族を対象にアンケートを実施している。。また法人内に第三者委員も設置しており第三者も交えた家族会や運営推進会議も定期的に行っている。		ご意見等伺ったら、思いに即お答えできるようなシステムを法人で検討している。ご本人・ご家族から苦情や意見の出る前にスタッフが気づくようにこれが法人全体の目標にもなっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回、運営者・管理者を含む全スタッフ出席の定例会を設けており運営・サービス内容などにも協議している。また月1回の責任者会議には運営者と法人事業所の責任者で話し合いがもたれている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各ユニットの状態や生活の流れに沿い、スタッフ人員を確保しており欠員スタッフが出た場合はユニットで協力して安定を図れる態勢を整えている。また何らかの理由で体制が不安定になった際にもすぐに相談できすみやかに支障のないようにこれは当然のこととしてできている。		突発的な時こそ、速やかに対応するように法人内に緊急要請をもとめられるシステムがあり、共同の研修で心得も出来ていて当然のことと全員心得ている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの環境を継続する努力はグループホームとしては当たり前なことであり大切なことである。責任ある立場の人はわかった時点ですぐ半年前、3ヶ月前に知らせてもらうよう配慮している。グループホームに働くことをよく理解することで離職する人もそれなりに心得ている。		スタッフは心得ていても突発的でやむを得ないこともある。その場合は本体のホームから資質の高い人を送っている。パートさんで配慮のある人を遅れるよう育成はしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体の法人が時代にふさわしく一番すぐれたレベルの高い講師を呼び全員で研修を受ける他リーダー育成の為に研修年も5回行ない現在も3人の講師に来ていただいている。		研修に関してはほどの施設よりすぐれた人材を呼び勉強会を行っている。それを100パーセント介護に生かせる努力をどう培っていくか？
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在「認知症になっても安心して住める街加世田」としてトータル支援パスを公の病院、公共機関、開業医師長、行政などで行ないシンポジウムを行なった。		シンポジウムに厚生省の課長も招きPRもしているがなかなかグループホームの人は出席されない。同業者とのよりよい交わりの会になると思っているが地元より遠方が多く地元の人に来てほしい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の「ケアする人のケアは15年前から取り組み現在は一人の女性が聞き役となっている。以前は職場を回ってくれる人もいたが現在はいない。		一人の女性が要望など聞きスタッフは言いやすいと思うが、心のケアまではできていないかもしれないので専門の人をまた捜したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ケアの質を高めハード・ソフトと共に良い環境にある。それを認めてもらえて東北から研修に来ている人もいることが励みになっている。家族のクレームも少なく向上心やプライドを持って働いていると思っている。		一月に2回全体会に理事長も出席し責任者会議でも懇談はしている。人間の生地の教育ができていない人にはよく理解してもらっている。人間の基本的な常識の勉強からはじめないといけない点もあり苦悩もある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに本人の身体状況や環境・生活歴・相談内容を記入し分析するとともに本人の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めている。		複数のアセスメントシートを併用するスタイルでご本人、ご家族の思いを受け止めるような会話の機会を設けることにより関係作りに努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに相談内容を記入し分析するとともに家族等の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めている。又、介護疲れなどからくる体力的・精神的苦痛にも配慮した対応を心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に関わった居宅ケアマネージャー・ソーシャルワーカーとも協力し本人と家族に必要なサービスを見極めホーム入居までの支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	各ユニットの中で本人にふさわしい環境に近いユニット(生活歴・ご本人の知人の有無・共通の地域や関係性の深い土地性などから配慮)を提案し本人・家族・友人などに好きなだけ訪問していただき安心できるように配慮している。また本人の気持ちや思いを尊重しつつ、家族とも相談しながら馴染みの環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で共に携わる家事や四季の行事、普段の何気ない会話の中で喜怒哀楽を共有すると共に、スタッフは昔のしきたりや郷土料理、本人の特技(生け花)を教わることも多く、本人の語る人生からも学び得るものは大きい。又、一つの家族として共に暮らす人同士の思いやりある言動や、スタッフも含めた互いへの思いやりの言動など暮らしの支えとなっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしに関わっていただくことはもちろんであるが、家族と地域と楽しむ行事もともに計画を立てて実施している。家族状況に合わせて負担にならない配慮や介護に関する悩みの傾聴も行っている。	○	今年度より、互いに支え合う関係を深めるために職員の希望で家族会代表を家族の中から選出した。今後もha家族会の代表が中心となって家族(本人も含む)と職員と共に行事などの企画・運営をおこない喜びと楽しみを共有していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の症状の変化や想いのすれ違いにより疎遠になっていく家族にも話しの傾聴・お手紙・近況を知らせるお電話・家族の記念日への声掛け・本人と家族の外出などの支援で心を和らげることからはじめ、本人と家族がより良い関係を築けるように各ユニットの全スタッフで心がけている。		本人と家族の関係はそれぞれであり、スタッフ間で情報を共有し取り組んでいる。家族の訪問時にはスタッフが間に入り和やかに過ごされることで家族の疎遠となる原因が回避されるよう努めている。今後も継続してお一人お一人支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの想いに添い実現できるように支援に努めている。暮らしの中に根ざした商店の利用などはもちろんのことであるが、親戚・家族の行事、地域行事やお墓参りなども家族の理解と協力で支援している。又、訪問客も来訪しやすいように周囲にも声掛けなど行っている。		近所の方や友人など馴染みの方が気軽の訪問している。今後も気軽に訪問できる雰囲気づくりや環境づくりに努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	地域の中で育まれた関係やホーム内で築かれた関係などに留意しその変化にも配慮して支援している。日々の暮らしが安定しお互いが支え合う環境になるように努めている。		食卓の席順・居室位置・各ユニットの交流も全て利用者同士の関係性や関係づくりに配慮して行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	要介護度の変化や入院などで退去されても本人・家族がホームでの暮らしを切望することが多く、法人内の他施設や居宅ケアマネージャーの協力も得ながら関わっている。又スタッフも施設・病院の訪問、電話などで近況の確認など行い本人・家族が不安にならないように心がけている。		継続的な関わりを必要とする利用者は、条件が整いしだいほぼ再入居となっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを活用し把握に努め本人本位に検討している。		33・34・35についてはグループホームでのケアの基盤と捉え全ユニットスタッフで把握に努めている。又、「その人を知る」ためのスキルを高める為の内部研修を同法人スタッフでもある県の認知症研修指導者の指導のもとに行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを行い、その方の人生を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の家での日常に関する把握はもちろんであるが、ホーム入居後はモニタリングを行い一日の過ごし方、心身状態、有する力など各専門スタッフからの情報も取り入れ総合的に把握するように努めている。また日々の経過も記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフも交えた本人・家族との日々の会話・スタッフ間で毎日行われているミニカンファレンスの中で話し合われた内容、専門スタッフの意見なども反映し定期的なモニタリングとサービス担当者会議で検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題ごとに必要期間を設定し、見直しを行い時期課題につなげている。又、状態変化には随時、本人・家族・必要な関係者と話し合い検討し現状に即した新たな計画を作成し対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し毎日のミニカンファレンスで情報を共有し活かしている。		これまでに、全ユニットのスタッフでおひとりお一人の日々をどのような形式でどのような記録の仕方ですれば継続したケアを行えるかグループワークで検討し現在の記録になっている。今後もおひとりお一人の日々のケアに繋がるような記録を検討し少しずつ改善していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「もう一つの私の家なでしこ」はグループホームであり事業所としては多機能性は持ち合わせていないが法人が特別養護老人ホームを母体にその人を生涯支えるサービスを整理理念を統一したサービスを展開しているため要望に応じた柔軟な支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。又ホーム全体でもいろいろな地域資源と協働できるように働きかけを行っている。	○	家族や地域の方(近所や子ども会)・ボランティア、全て夏祭りやクリスマス会にお呼びして深い関係が築かれている。今年度は地域推進会議へ消防の参加をお願いしたが今後は警察の方の参加も呼びかけたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じてリハビリなど医療サービスとの連携など支援されている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のクリニックをかかりつけ医としている方が多いが、本人・家族の希望を大切に今までのかかりつけ医との関係を継続できるように支援している。		法人内のクリニックと、関連病院との関係も良好でかかりつけ医者とのなじみの関係も深い。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>同法人内にクリニックがあり、認知症専門外来を行っている。専従のドクターがいるので安心して相談できる環境にあり、利用者も定期的に診断や治療を受けている。</p>	<p>ほとんどの方が認知症外来を受診され「脳リハビリ」を提供している。必要な方は継続受診で専門医師とのより歩意関係の出来ている。今後、受診されていない方も家族に呼びかけ支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同法人内にクリニックがあり気軽に相談できる環境にある。又、定期的に訪問看護師の訪問で健康管理や健康に関する相談を支援している。</p>	<p>法人内クリニックの医師や訪問看護師と24時間連絡が可能な体制である。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院後は定期的に連絡を取りできるだけ早期に退院できるように支援している。又同法人内のソーシャルワーカー・居宅ケアマネージャとも連携し円滑に退院できるように行っている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末ケアについては入居時及びその後の必要時に話し合い事業所としての方針、これまでの取り組みなどに説明している。</p>	<p>法人内の特養・クリニックは平成2年から終末期医療を家族と共に行っている。経験を積んだ看護師との関係も深く、在宅支援専門診療所もあり、環境は整った状況にある。また訪問看護ステーションとの医療連携で24時間相談できる体制はできている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>同法人内のチームで行う定期的な会議にて情報を共有しながら今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療との連携は不可欠である為、かかりつけ医や訪問看護ステーション等チームとしてのシステム化に取り組んでいる。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>事前に話し合いを行い介護情報提供書でホームからの情報を提供している。また、本人の混乱につながらないよう十分心を使い、多面的に判断、慎重に行っている。</p>	<p>ユニットの移動の際は居室の場所を同様に設定したり前以って関わるスタッフと顔なじみになるように配慮している。又他事業所への移動も出来る限り配慮を行い、本人のダメージをなくすように検討を十分に行う。スタッフをはじめ、関わる人達とともにこのことは最も大切にしていることである。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	左記はホームの理念に深く関わっており、もっとも大切にしている部分である。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、慎重に取り組んでいる。	法人で個人情報保護規程を作成しており規定に従い情報の取り扱いを行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	暮らしの中で同じ目線で話の傾聴を行い筆談が必要な方へも理解していただけるように対話している。又自己表示の困難な方にも表情や仕草から受け止め寄り添いながら自己決定を大切にそして継続できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースにあわせてゆっくり待つことを基本にその人らしく暮らせるように支援している。また、一人ひとりを知り、本人の希望を遠慮なく言える声掛けで自己決定いただき家族の協力を得ながら本人の思いに添えるよう努めている。	その方のペースに合わせて遅めの朝食や入浴時間の対応できるように配慮している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節にあった日々の身だしなみはもちろんであるが、家族行事や外出時にふさわしいおしゃれも支援し理容美容も馴染みのお店や希望によってはビューティヘルパーを利用しカット・パーマ・染めなどを楽しまれている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や季節感を取り入れた献立を職員と一緒に考え、誕生日には本人のお好きなものを取り入れている。毎年、自宅で行っていた様に梅干しやらっきょうを漬けて常備している。又、好みは個別にも柔軟に対応しており食事を楽しんで頂いている。調理から片付けまで職員と共にを行い、その方の力に応じて役割分担ができています。	○ 外食で個々のお好きなメニューで食事を楽しむ機会をもうけている。来年度は定期的の実施したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望む嗜好品を楽しめるように支援している。医療的制限ある方も主治医に相談し楽しめる環境になるように努めている。	お買い物での好物の購入・好きな飲み物の選択や特別な日の祝杯などおひとりお一人の状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の誘導の必要な方は排泄パターンの把握に努め適時にプライバシーに配慮を行い誘導している。夜間も失禁の不快感がないように必要な方には適時誘導を行っており昼夜を問わずオムツ・リハビリパンツの使用は行わない事で排泄に取り組んでいる。又各居室にトイレがあり安心して排泄できる環境になっている。		トイレの場所が把握できない方に対しても独自に案内板を見やすい位置に設置し、プライバシーに配慮した排泄の自立を目指している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、いつでも入浴できる体制となっており本人の希望に応じての個浴や適切な介助でゆっくり楽しんで頂いている。入浴に関しての希望もアンケートや、聞き取りを行い即座に対応している。		介助のない個浴を希望される方へは安全に配慮し、入浴を楽しめるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	おひとりお一人に合わせて対応されている。休息に関しても閉じこもり孤独感に配慮し見守りを行い昼夜逆転につながらないように気持ちの良い睡眠につなげている。夜間も夜勤スタッフが安心して眠れるように昼から継続した対応で行っている。		心地よい睡眠に繋げるために日中の活性化を継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や生活歴から役割・楽しみを共に模索し支援し常に自信を高めるような言葉かけや働きかけを行い喜びにつなげている。日常的に散歩やドライブ、買い物などの気晴らしも行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは、本人がお金を持つことの大切さを理解しており金銭の管理が出来ない方も家族の理解を得て、小額のお小遣いを持っていただき買い物時に、ご本人がお財布からお金を出し、好みのものが購入できるようにその緊張感を大切にしながら支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のお買い物・散歩やドライブ・外食・催しや地域行事への参加・家族との外出など選択肢を広く本人の希望に添い支援している。		ヒーリングガーデン(いやしの庭)や近くの公園へ出掛けたりと日々、戸外での活動を楽しめるように工夫もなされている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら支援している。家族の遠距離である方にも配慮しておりお墓参りや実家帰省も行っている。又グループでのドライブ・レストランでのお食事・文化施設・法人内の美術館の企画展ごとの見学へのお出かけなど支援している。		各ユニットで家族を交えた温泉・お花見や地元の祭りへの参加など展開を行ってきた。今後も家族とホーム・地域の資源を活用し本人の希望を叶えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話の取次ぎや手紙・ファックスの受け取りはもちろんであるが個人で電話が自由にできるように3階に馴染みのピンク電話を設置している。又、利用可能な方には携帯電話も勧めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	スタッフ・本人・家族からも働きかけて気軽に訪問できるように努めている。又玄関まわりも季節の花や庭木を植えるなど家庭的な雰囲気に整え日中は玄関を開扉しており誰でも訪れやすい環境づくりに心がけている。共同スペース・居室でもくつろげるように心がけておりお茶道具なども自由に使えるように準備し言葉かけに努めている。		ご家族はもちろん、馴染みの近所の方も気軽に訪問している。又、職員も温かく迎え入れる対応ができています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に深く関わっており大切に取り組んできたことである。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、法人一丸で取り組んできたノウハウの継続に努めケアに取り組んでいる。		法人が20年の歴史を持つ抑制・拘束なしの施設として全国的に知られており、受賞歴もある。最初から拘束なしを当たり前としてきたので、当然のことと徹底している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人開設当初より鍵を掛けないケアに取り組んでおり、昼間は玄関は勿論、裏門も鍵を掛けないで生活されており、自由に外出できている。外出したい方にはスタッフが寄り添い好きなどころへ出かけられている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフで連携し日々の体調・ADL・精神の状態などの変化を把握し暮らしの中でさりげない関わりで安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	おひとりお一人に合わせた危険を防ぐ取り組みを行っている。針道具・はさみ・かみそりなど管理の困難な方だけお預かりしているが本人の必要な時は安全に利用できるように支援している。包丁に関しては夜間のみ洗剤等は誤飲のないように大型の容器は安全な場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルも作成されており知識の共有を図り、想定訓練も含め勉強会で知識を学んでいる。又日頃のケアの中でヒヤリハットや法人独自の事故報告書で一人ひとりの状態に応じた事故防止・再発防止に取り組んでいる。		今年度よりリスクマネジメント委員会を発足し事故の未然防止に繋がるよう分析や検討を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルもできており緊急対応されている。又ケアワーカーも必要最低限の対応ができるよう、定期的に法人内で行われる応急手当の講義・実技に参加し落ち着いて確実に実行できるように繰り返し学習している。		急変時は医師が24時間対応できる体制を整えている。医療連携による看護師も相談や訪問も24時間対応できている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いろいろな場面を想定し定期的な防災訓練を行っている。過去の長崎での火災事故よりスタッフ・市職員の防災意識も高まっており運営推進会議でも協議を行ったり地域の人々の協力を得られるように働きかけに努めている。		今後は地域の協力のもと、火災発生時の協定書を結び地域の方々への協力をお願いしている。今年は火災訓練も近隣へチラシを配布し参加を呼びかけた。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、おひとりお一人の様々なリスクについて日頃より充分な話し合いをしてご理解いただき、日々のケアの中で対応策を講じ抑圧感のない暮らしを支えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定・体調の変化やサインを記録し情報を共有しスタッフは全身で変化や異常のサインを受け止めるよう努めている。又、昼夜、Drに相談できる体制があり早期対応が適切になされる環境が整っている。		午前午後の体温測定を行ない早めのしゅじいのお年寄りには体調の変化を訴えられない方もあるが、スタッフの気づきで早期にきづき悪化の防止を図っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により正確に服用されるように、おひとりお一人の服薬関連のファイルを作成しスタッフが理解できるようにしている。又おひとりお一人の力に配慮した関わりで服薬の支援を行っている。		発熱や頭痛など、突発的な症状に処方された薬も症状に合わせ主治医との連携で服薬の継続か中止かの指示も小まめに受けている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼ることなく適切な食事・運動・水分補給で下剤を使わない便秘予防に取り組んでいる。水分は体重にもよるが、1日に1500CCを目標にその方に応じて朝の冷たい牛乳・お茶寒天も取り入れている。以前、薬を処方されていた方も医師と相談しながら減らしていき自然でスムーズな排泄のリズムを取り戻されている。		おやつに繊維質のものを取り入れたり、毎朝の散歩を日課としている。フロア内でのステップライフなども取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	同法人内の専門の歯科衛生士の指導によりおひとりお一人の口腔の状態・本人の力に合わせた支援を毎食後行っている。		口腔内は嗽のみでなく、クルリーナを使用して舌や歯茎等口腔内も残渣物がない様になっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残して把握している。栄養バランスについてもスタッフ勉強会での知識の共有を図り同法人の管理栄養士からの助言などで適切に確保できている。又、ホームで用意する食品以外の親しい方からのお心遣い・贈り物・買い物などの摂取量の把握にも努めその後の様子からバランスをとっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり法人内の医療スタッフによる勉強会への参加などで全スタッフが実行できる体制となっている。		感染予防や蔓延防時または、その防止についての勉強会も定期で行っている。なでしこでの勉強会やユニットでの話し合いで予防の強化は行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は毎日の買い物で新鮮なものを選択し、調理器具は洗浄乾燥、定期的なハイター消毒、熱湯消毒を徹底している。又、冷蔵庫内についても定期的に清掃を行っている。		食材の使用日を記入し安全な食材の管理に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体も「この建物は何かしら？」と夢や興味を持っていただけるような外観を擁しており、周囲は季節の花や庭木を植えるなど家庭的な雰囲気を整えるとともに日中は玄関を開扉し、独自に併設している庭園も地域に開放するなど誰でも訪れやすいような環境づくりに心がけている。		家庭として看板を掲げてなかったが、かわいい看板を掲示して、「グループホームなでしこ」わかりやすくなっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・天候や時間に合わせて配慮している。調度や備品は入居者にふさわしい品を配慮し調べ物品も入居者の意見を取り入れた電化製品などを準備しており、フロアの装飾も入居者の手作り作品など配置したりと家庭的な雰囲気になっている。又、季節行事の馴染みの装飾・楽しい装飾など入居者とともに楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下のスペースをソファーや予備の椅子、観葉植物などで必要に応じた模様替えが行えるようになっており各々に和やかな語らいの場や穏やかにひとりで過ごせる空間も確保できている。		ご本人が時々模様替えをされることもある。ご自分の好みにあった居心地の良いと思える環境作りを支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的な家具はホームにて準備しているが、持ち込みは自由である。家族の協力により、大切なもの・思い出の品・使い慣れた道具などの持ち込みもあり安心して過ごされる居室の環境が整っている。入居時にご家族へも馴染みの物を持参するように呼びかけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節・天候や時間に合わせて適切に行えるように努めている。各室にトイレが設備されているが設計上も換気に配慮されており、トイレ掃除専門の人員も確保されているため爽やかな環境が保てている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に関わる場は同法人内のクリニックのPTの助言を取り入れた自立支援を目指した設備設計となっている。又、おひとりお一人の身体機能の変化に合わせ、ケアの内容とともにPT・専門スタッフと検討し安全を保ち自立した生活を送れる環境づくりを行っている。		居室にはトイレも備え出来るだけ自立した生活を支援している。法人には理学療法士も数名おり、身体機能に応じた環境作りも続けていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室や共有空間の装飾は明るい優しい色彩を使用し、やわらいだ気分の中で過ごせるように配慮しており毎日のケア・清掃などの中で混乱の原因をつくらぬよう心がけている。又、認知のための表示については症状に合わせたケアで自尊心を大切にあらさず表示を避け、さりげないケアで混乱を防ぐための工夫をこらしている。		自分の好みでお部屋を飾れる力のあるうちは充分に楽しんでいただく。本人の考えや好みに基づき支援することが大切と思う。環境による混乱のないよう自尊心を大切に1人ひとりの分かる力を大切に工夫して寄り添い見守ってきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	独自に併設している庭園や1Fテラスなど行事から日々の茶話会まで多目的に活用している。道路を隔てた小さな菜園も季節野菜を育てて楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	② ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は旧厚生省のグループホームモデル事業として始まり、認知症を抱えながらも地域の中で暮らし続ける為にどのような支援が必要かを共に考えてきました。専門医や認知症介護の専門家による定期的相談会などサポート体制も充実しています。
なでしこ3階では、高学歴の方が多いため特に自尊心を傷つけないようなケアを心がけており、認知症の方が地域の中で尊厳を保ち生き生きとした自分を実現し暮らし続けるためには、どのような支援が必要かを念頭に置いている。また、趣味や特技は継続して行えるよう支援しており、その中で役割や生きがいを持っている方も少なくない。お一人おひとりの生活歴に合わせご本人の希望を良く知り、自己決定・自己実現につながるよう願っている。お年寄り(家族)と、スタッフとの会話が多く共に支え合う関係となっている。